

この国の不幸は選挙から生まれ 乱鬼龍

不定期にフープア川柳が登壇

駅利用者数が示す地域の姿

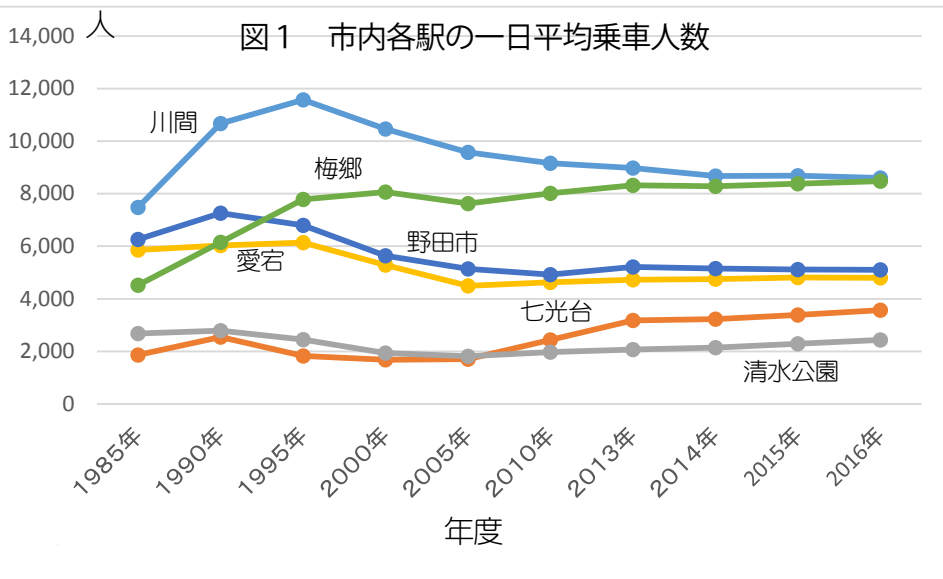
駅周辺の開発年代と住民世代が浮き彫り

川間駅南口で朝6時半から1時間、30年以上も毎月議会報告を配布しているが、通勤・通学で利用する市民が激減している。気になって県の統計年鑑の「民鉄等駅別1日平均運輸状況」で調べたのが図1と表1だ。85年から2010年までは5年ごと、その後13年からは毎年で、最新データは16年度まで。

高齢化する初期団地群

これで市内駅を利用する市民の世代と住宅地の状況がわかる。

まずは川間駅だが、南口は野田市が区画整理した岩名1、2丁目を軸にした大団地群と北口の日の出町に団塊の世代以上の市民がいっせいに住み着いた。95年がピークになっているのはその子ども世代が進学や就職で地元を離れ始め、その後親の世代も定年を迎え通勤・通学者が減少に入ったことを示す。



その後、北口にある尾崎台で区画整理が行われ、減少に一定の歯止めをかけている。

梅郷駅は05年に減少したがその後増加している。これは福田地区の大団地居住者が定年を迎えて減る一方、みずき地区が開発され、同時に花井・大和田地区等の開発で人口増となっていることを表す。

野田市駅と愛宕駅は減少したもののほぼ横ばい状態を維持してい

る。

七光台駅は駅西地区の光葉町の開発で乗車人数が増加、清水公園駅も周辺の開発で利用者が少しずつ増加している。

こう見てくると駅周辺の開発可能面積が重要だが、さて直結鉄道を野田市駅に持ってくるとなると開発面積をどう確保するのか。まさか、今上地区の水田を視野に入れるのではあるまいな。

表1 市内各駅の一日常乗車人数

	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2013年	2014年	2015年	2016年
川間	7,477	10,668	11,575	10,463	9,570	9,166	8,985	8,679	8,685	8,605
七光台	1,859	2,548	1,832	1,683	1,707	2,439	3,185	3,233	3,382	3,572
清水公園	2,677	2,784	2,445	1,932	1,815	1,972	2,076	2,141	2,284	2,440
愛宕	5,863	6,026	6,145	5,289	4,495	4,629	4,727	4,749	4,812	4,794
野田市	6,265	7,261	6,795	5,640	5,135	4,917	5,220	5,151	5,122	5,108
梅郷	4,520	6,148	7,789	8,070	7,632	8,022	8,323	8,280	8,381	8,484
市内駅合計	28,661	35,435	36,581	33,077	30,354	31,145	32,516	32,233	32,666	33,003
運河(参考)	8,751	10,472	11,243	10,572	11,060	11,247	10,776	10,472	10,766	10,850

東海村にある危険は第二原発だけではない 使用済み核燃料再処理施設にたまる天文学的な放射能

東海第二原発の運転期間の延長と再稼働の綱引きが続いている。そして核燃料サイクルの施設として、現在国立研究開発法人「核燃料サイクル工学研究所」の存在がある。同法人は使用済み核燃料を原発燃料として再利用するなどの再処理事業の中核施設として膨大な放射能を抱えている。

しかし、高速増殖炉もんじゅ事故や福島原発事故などを経て、同法人を所管する日本原子力研究開発機構（JAEA）は 2014 年に再処理施設の廃止を決定、18 年にその認可を国から受けている。

廃止が決まったとはいえ、廃止完了まで 1 兆円に上るといわれる巨額の税金と、70 年かかるという

危険な年月が突きつけられる。これまで貯めてきた約 400 m³、約 430 京（けい、兆の 1 万倍）ベクレルの高レベル放射性廃液が施設内にあり、この安全管理が重大な関心事となっている。

もちろん最終処分場は確保されておらず、核燃料サイクルという幻が消えた今、原発の再稼働で使用済み核燃料を増やしてどうするのかと、費用負担とあわせ政府や電力会社、それに連なる原子カムの面々に問わなくてはならない。

いま時代は緊縮政策から反緊縮へ 『反緊縮宣言』が発刊

亜紀書房から『反緊縮！宣言』が発行された。松尾匡^{ただす}立命館大学教授が中心となって現在の国民の閉塞状況を打開しようと

なぜ日本だけが 20 年以上も平均所得が減り続け、消費税増税と社会保障破壊という庶民の痛みが増え続けるのか。「緊縮」政策を受け入れてきたのは大きな間違いだったのではないか。

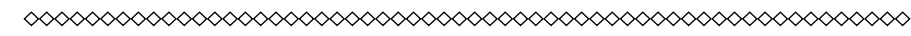
同書は「世界の政治・経済を動かす新座標軸、『反緊縮』を知らなければ、これからの社会は語れない！人びとにもっとカネをよこせ！そう、これは新たなニューディールの宣言だ。日本の経済・社会を破壊した『緊縮』財政主義を超えて、いまこそ未来への希望を語ろう。」と提案する。

話題になっている MMT は単なる借金拡大ではない。そこには人間の尊厳を第一に考える経済思想がある。

目次は次のとおり。

- ・反緊縮って何だ!? 松尾匡
- ・おすそ分けのすすめ 池田香代子
- ・なぜ消費税を社会保障財源にしてはいけないのか 森永卓郎
- ・他者を殴る棒 岸政彦
- ・わたしにとっての反緊縮 生活から政治を語る 西郷南海子
- ・政府の借金なくしてデフレ脱却なし 井上智洋
- ・反緊縮経済学の基礎 朴勝俊
- ・リベラル再装填のために 宮崎哲

- 弥
- ・日本におけるポピュリズムの困難と可能性:「アジア」という視座 梶谷壊
- ・ヨーロッパを救うひとつのニューディール ヤニス・バルファキス
- ・世界中の革新派勢力への呼びかけ プログレッシブ・インターナショナル
- 値段は 1700 円+税



憲法を活かす会千葉県協（廣瀬理夫共同代表）は 25 日、千葉市内で山城博治・沖繩平和運動センター議長を迎えて憲法集会と平和行進を行った。